

平成22年度 第2回 第4次総合計画フォローアップ会議 会議録概要

- ◆日時：平成22年11月10日（AM10：00～PM1：00）
- ◆場所：富田林市役所 5階 介護認定審査会室
- ◆参加者：委員…大西・前川・山内・湯口・吉川（座長）委員
事務局（政策推進課） … 村本、谷口、大原、仲谷

発言者	発言概要
事務局	<p>◆会議に先立って</p> <p>会議の公開と録音の了承をいただきたい。 ⇒（異議なし）</p> <p>傍聴希望者は現時点でいない。</p> <p>前回（第1回）の会議録の承認について。 ⇒（一部を修正を加えることで承認を得る）</p>
事務局	<p>◆会議の開始</p> <p>資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1…平成22年9月30日現在で効力を有している、「富田林市の指針・計画等一覧」 <p>※補足説明…前回会議の資料であるフォローアップシート①については、各課が事業ごとに作成している実施計画書シートからデータを取り出したもの。今回、実施計画書シート（計画期間：H23～H25）を参考に配布。</p>
委員	<p>一般的に市町村の規定や指針・計画は、国や府から言われて義務的に作成するものが多く、それらについては市の名前を書き替えるだけのフォーマットが下りてくるため、市としての考え方が生まれてこないのではないかと。資料1の中に自主的なものはあるのだろうか？</p>
事務局	<p>先日パブリックコメントを実施した「行財政改革の推進について」（H22-H26）は、国から通知があった「集中改革プラン」（H17-H21）に続いて自主的に作成した。他に保育所民営化基本方針についても自主的に作成している。</p>
委員	<p>自主的といっても集中改革プランそのものは総務省からの通達であり、あくまでも、経費節減のための計画として作られている。（計画等の作成の際に）義務的なものであってもなくても、各課が総合計画に基づき、まちづくりと経費節減のバランスがどれだけ自主的に考えられているのか、政策推進課の仕事として見ていく必要がある。</p>
座長	<p>それぞれが単に国からの流れだけに沿っているのか、どの程度自主的に作成されて</p>

	<p>いるのかを知った上で、総合計画の理念をどう生かしていくのかを考えたい。</p>
委員	<p>国からの「ひも付き補助金」が一括交付金化されようとしていることで、指示待ちで良かったものが、自ら考えざるを得ない体制へと変移しているため、(余計に) 総合計画が重要となる。</p> <p>(富田林市が) 地方分権を担える地方政府に変わっていくために、自主的な計画を自主的に実施していくということの必要性を皆が認識しなければならない。特に市が経費節減を考えようとする時、今の段階ではまちづくりと経費節減のバランスをとる力となるのは総合計画しかない。</p>
委員	<p>ただ、そのこと(「ひも付き補助金」の一括交付金化)の意味がなかなか(市民・職員に)理解されていない。</p>
委員	<p>そこは市長なり政策推進課が先見的に動く必要がある。(要するに) これまで国によって形づくられてきた「まちの方向性」を、これからは自主的に作っていかうことである。</p>
委員	<p>その時に「市民協働のルール」がなければ、従来のように特定(一部)の市民の声だけが反映されてしまう。</p>
委員	<p>言い過ぎかもしれないが、(協働というよりはむしろ)市民が主権で行政・議会と一体となって、まちのプラン(計画)を作らなければならない。行政のみの体制ではなく、小学校区などの単位で合意形成されたことがまちのプランとなるようなしくみづくりを行う必要がある。</p>
委員	<p>(地方分権については)言葉では何となく理解できても、実態がどう推移するのが分かりにくいので整理する必要がある。</p>
事務局	<p>いわゆる「ひも付き補助金」の根拠法令を上位法とする計画から自主的な計画へ転換することで「質」は変化するし、計画の数は増える可能性がある。</p>
委員	<p>それはそれで進歩であると考え。市民を巻き込んだ形にしないといけないが、行政・市民ともに都合の良い所しか投げ掛けないし、耳を傾けないという従来の傾向を修正し、市民も行政も町全体の将来を考える習慣を身に付ける必要がある。</p>
事務局	<p>行政のみでの対応が出来なくなっていくという状況について市民の理解を得る必要があるが、市民を巻き込む「やり方」についてもご提言願いたい。</p>
委員	<p>市全体としては、国からのタテ割りの投げ掛けを市長や議会が再編成しているように、各地域は市からのタテ割りの投げ掛けを市民が再編成し、自らの問題として捉えることができるような体制(例:地域協議会)づくりを支援していかなければならない。</p>

事務局	<p>枚方市ではPTA・町会・福祉委員会等を統括する組織である地域協議会ができていますが、平成5年の動き始めから市全域に設置されるまで10年ほど掛かっている。現在は、市役所側は担当窓口を設置し、対応を一括化している。</p>
委員	<p>大阪狭山市でも、岸和田市などでも取組みはなされているが、市民はそれほど乗ってきていない。(取組みを始めている市町村の例からも分かるように)時間は掛かる。従って、新しい時代に対応するために、できるだけ早く取組みを始めるべきである。</p>
委員	<p>それについては、総合計画の理念からも、取り組んでいくという判断になると思うが、始めるにしても、土壌(市民の機運)が出来ているのかということもある。</p>
委員	<p>地方分権一括法(平成12年4月施行)が出来てからの大きな流れであり、それを各自治体がどう捉え、先見的に動き始めるのかということである。3つのしくみづくりが目指しているのは、こういう流れに対応することである。</p>
座長	<p>この辺りの流れ(動き)について、委員に分かり易く整理していただきたい。 ⇒(委員了承)</p> <p>(こういう流れの中であって)この会議の会議録等による発信機能はとても重要である。</p>
事務局	<p>引き続き資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2…庁内の全事務事業を施策別に分類し、行政評価シートを作成したものには網掛けしている。(どの事業がどの施策とリンクするのは担当課の判断) ※評価対象外事務事業…予算事業の中でも課の運営に関する事務である一般管理事務や人件費等。 ※評価対象外事務事業(配賦対象)…施策の視点では評価できないが、人件費(標準単価)を他の評価対象事業に配分する事業。 ※計画事業と予算事業の関係…予算事業と1つまたは複数の計画事業が対応しているイメージ。予算・執行については、各課は予算事業ごとに要望し、そこに複数の計画事業が対応している場合には、費目を各計画事業に振り分けている。
委員	<p>(計画事業と予算事業の関係について)本来、計画があつて予算編成(の流れ)となるべきであるが、実態としては予算ありきとなっている。</p>
座長	<p>(予算要望の際には)計画事業の積み上げはしている?</p>

事務局	行っている。
座長	一般職員の考え方のベースが予算事業ベースなのであれば、施策との関係に目が向いていないのでは？
事務局	その点については、行政評価シートを作成することで、事業目的や施策に対する成果などを意識するようになったと考えている。
委員	（そういう意味においては）これまで政策推進課のみが事業と施策の関係を考えていたが、各課も考えるようになってきたと言える。 （政策推進課が作成している各期の実施計画書について）3年ローリングということになっているが、実績と見比べるためには年次設定を載せておく必要がある。
委員	各課は行政評価の結果を見て実施計画シートを作成している？
事務局	そのようにしている。
委員	実施計画書に掲載されている事業については、すべて実施計画シートがあると考えて良いのか？
事務局	経常事業については基本的に実施計画シートを作成していないが、実施計画書には載せている場合がある。投資的的事业については、ほぼ全て実施計画書に載せているし、シートも作成している。
委員	事業の中で実施計画書に載せる基準は？
事務局	投資的的事业、市長のマニフェストに関する事業、独自性のある事業、PR 効果のある事業が（基準として）挙げられ、基本的には全てシートを作成している。
委員	これまで予算中心の考え方の中で、総合計画が宙に浮いていたが、（これからの時代に対応するのに）重要性を増す総合計画を、（住民基本条例等の）条例により位置付けていく必要がある。 委員より資料の提示（以下内容） 1. 何をしたら“総計をフォローアップ”したことになるのか？ 2. フォローアップシート①（前回会議資料）に関する疑問 3. フォローアップシート②（前回会議資料）に関する疑問 4. 第3期実施計画に関する疑問 5. その他 今回特に取り上げたい事
委員	フォローアップ会議の目指すものは、（中期的には）総合計画の5年目の見直しの

	<p>際の視点の提示、(最終的には)次期総合計画策定のための基礎作りであると考えている。</p>
座長	<p>5年目の見直しを行うのは来年だと考えている。今回評価しなければならないのは昨年のフォローアップ会議で提言したことがどの程度進展しているのかということ。</p>
委員	<p>総合計画の中身ではなく、構想を具体化する手立てを見直すというイメージだろうか。</p>
座長	<p>「見直しをどの視点から、どのような方法で行うか」について、各委員がイメージを共有して、決めて(提言して)いくこともフォローアップの役割ではないか。</p>
委員	<p>(具体的に言えば)総合計画の目標を実施計画に反映させる、(自治基本条例等の)条例制定の明文化、将来の地方政府化に向けたしくみづくりの進め方について、であろう。</p>
委員	<p>分権の流れに対応するために総合計画の必要性が高まっているという認識を得るためにも、附則として具体化していった状況を提示し、10年目(第5次総合計画策定時)にはそれをベースに提案できるような形が良いのではないか。</p>
委員	<p>フォローアップシート①について、記載している事業が本当に“進展した”といえる状況にあるのか、また1章を積極的に推進していこうとしている中、なぜ(しくみづくりに関する)事務事業が市民協働課以外から挙がってこないのか、これを明らかにする必要がある。市民協働課一課で担う問題ではなく、市全体として、例えば政策推進課が担うべき問題である。</p>
事務局	<p>“しくみづくりの進展への取り組み”ということでは、前回の報告書を各課に提示し、内容の周知に努めたこと、行政評価の際にしくみづくりの視点を取り入れるよう働きかけをしたことなど、職員への意識づけを図った。まだまだ出来ていないところはあるが、第1章には上がっていないものの、各課の事務事業単位での市民協働は少しずつ進んでいると認識している。</p>
座長	<p>平成21年度フォローアップ会議報告書の内容に対する取り組みを表した資料があれば、現在の進捗状況を把握(評価)し易い。(前回の報告書が出てから期間が短いこともあり)出来ていない部分もあるだろうが、作成していただきたい。 ⇒(事務局了承)</p>
委員	<p>総合計画の目標と(作成される)シートとの比較により進捗状況を評価する。そして、各論的に各委員が関心のあること(第2章のタテ軸)について、指標の設定等の論点を抽出したい。</p>
事務局	<p>第1章もさることながら、第2章の内容が進んでいるのかも見て頂きたいと思ひ資</p>

委員	<p>料 4（前回会議提出資料）を作成したが、そちらについては如何か。</p> <p>第 2 章を見る際にも施策（第 1 章）の視点が必要であるが、各課が事業を行う際にその視点は今のところ無いし、また資料 4 のフォーマットについては総合計画の施策目標との対比がしにくいと感じている。</p>
事務局	<p>施策目標と事務事業とが関連しているのは間違いないが、その関連性が分かり易くなるような資料を作成する。また、どのような指標を設定すれば、そのように（各課が意識し易くなるように）なるのかご議論願いたい。</p>
委員	<p>これまでも事業を行う中でやり方の見直しを行い、その結果（成果）のみを表してきたのだろうが、（これからは）どのタイミングでどのような見直しを行ったのか、その経過も表現していかななくてはならない。</p>
委員	<p>今年度のフォローアップ会議では、いくつかでも施策を取り出して、その進捗状況の評価することを実績とし、来年度はそれを基に（事業数を）増やしたり、深めたりする。また、もう少し全体的な評価を行うための、フォーマットの整理もする必要がある。</p> <p>第一回目（昨年）のフォローアップは総合計画評価の在り方を考えるということで終わったが、今回は評価の在り方や仕方を考えるだけでは許されない。総合計画そのものの実施状況そのものを評価しなければならない。</p>
委員	<p>施策からピックアップして評価を行うのは良いが、こちらのスタンスがはっきりしていない中では、今年度は（評価そのものよりも）評価の視点を明確にすることであろう。その上で、今年度ピックアップを行い、来年度の評価に繋げるということではないか。</p>
座長	<p>◆最後に</p> <p>次回（平成 22 年 11 月 24 日）は、全体的な評価として『昨年会議の報告書の進捗状況』を、個別の評価としては『対象（第 2 章）のピックアップとその部分の評価するための情報収集を政策推進課にリクエスト』をしたい。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>